

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.42 2009年2月号

学校に通っていた時代は夏休みや冬休み、社会人になってからは週末や祝日が待ち遠しいものですよね。子供の頃は1年間毎日夏休みだったらいいのにと考えたことがあるのは私だけではないでしょう。社会人を前提にすると、お休みの日以外の日、要するに、働いている日が年間何日あるか、みなさんご存知でしょうか？

1年間は52週間ですから、土曜・日曜の週休2日制で考えるとこれだけで年間104日がお休みです。その他にもお正月や祝日などがありますので、一般的には、年間240日程度が働いている時間となります。1年間は365日ですから3分の2は働いているわけです。なお、睡眠時間を1日8時間と考えると1日24時間の3分の1が睡眠時間となり、人生の3分の1は寝ていることとなります！ こう考えると、人生の中で働く時間がいかに大きい割合を占めているかがわかります。したがって、人生を楽しく生きることができるかどうかは、この働く時間を楽しく過ごすことができるかどうかにかかっているとも言えそうです。

欧米のキリスト教的な考え方は労働懲罰説と言って、労働は人間に課せられた罰だそうです。楽園で暮らしていたアダムとイブは禁断の実を食べたばかりに楽園を追われ、働かなくてはならなくなったというわけです。幸せは休日こそあると考えると、働いている時間は少ないほどよくなり、極端に言うと、働いている時間をなくして休日だけをつなぎ合わせた人生が幸せな人生となります。でも、そのような人生がいかに短いものになるかは上で記載したことを考えると明らかですよね。一方、日本は労働神事説などと言って、働くことを神聖なものと考えてきた歴史があります。働くことを尊いこととして、社会のお役に立つことに喜びや幸せを感じるわけです。人生を楽しく幸せに生きるためには、日本古来の考え方の方が圧倒的に有利な気がしませんか？

ただ、日本は比較的祝日が多いとも言われており、労働懲罰説をとる欧米人のほうが実際には働いている日数が多いというデータもあるそうですね。

